

高等教育質保証学会第13回大会【セッション1】

# 社会人と大学院—学ぶ側から見た実情

リクルート進学総研主任研究員（社会人領域）  
千葉県生涯学習審議会委員

乾 喜一郎

24.08.24

## 本日の内容

- 社会人の大学院利用の多様さ
- 社会人が大学院で得たもの
- 社会人が大学院に入るまでのプロセス
- 社会人の大学院活用の少なさとその理由

## 話者について

乾 喜一郎

リクルート進学総研 主任研究員（社会人領域）

**専門は社会人学習（リカレント教育、リスキリングなど）の推進**

社会人学習専門誌「ケイコとマナブムックシリーズ」元編集長

「スタディサプリ社会人大学・大学院」監修

千葉県生涯学習審議会委員・同千葉県リカレント教育推進協議会会長

これまでとりあげてきた3000例以上の社会人学習者の事例をベースに  
文部科学省などにおける

各種リカレント教育推進施策の検討に

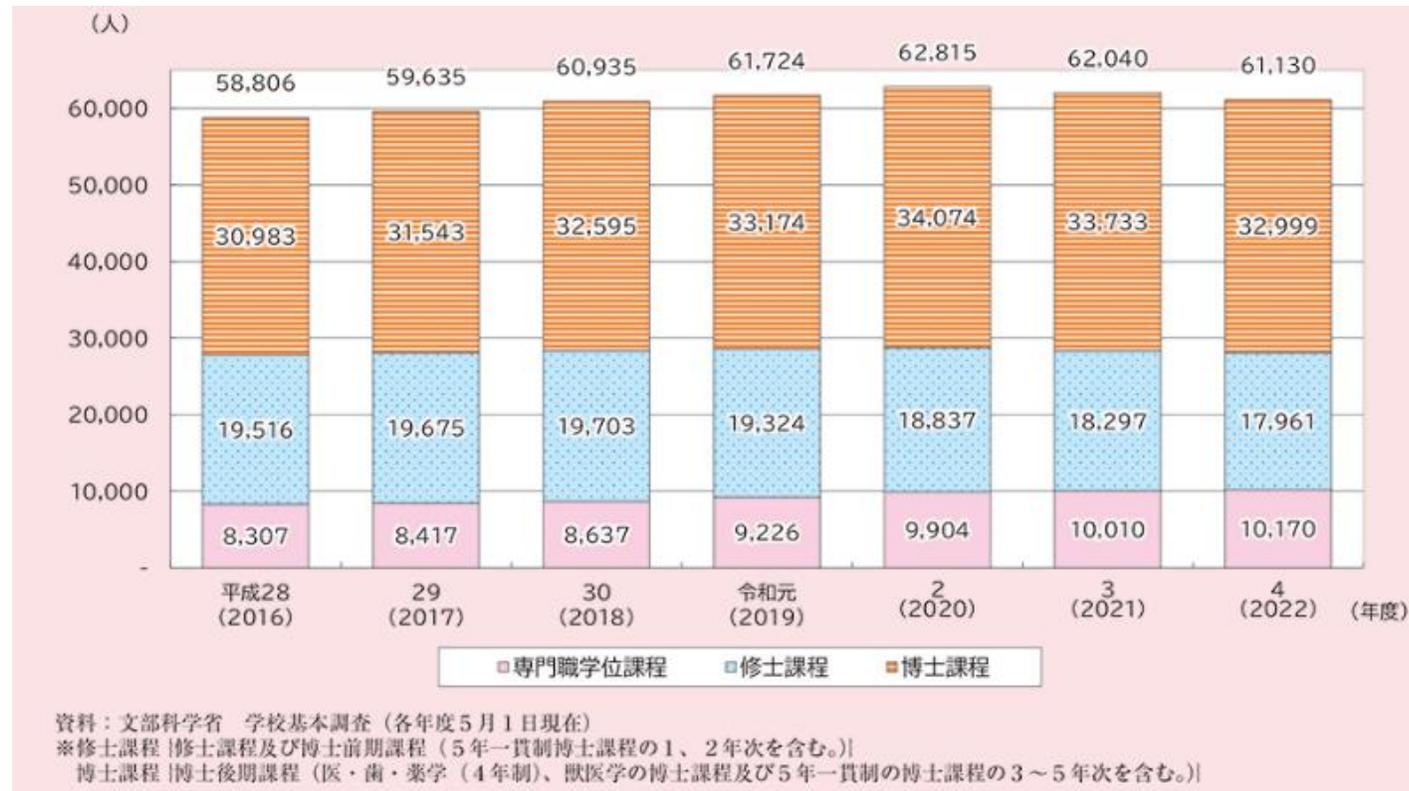
**学ぶ側の立場から参画**

【前提】

社会人の大学院利用の多様さ

## 【前提】 大学院の社会人学生数の推移

- ・ 大学院の社会人学生数は修士課程・専門職学位課程・博士課程を合わせ約6万人。近年ほぼ横ばいで推移。



内閣府 令和5年版高齢社会白書（全体版）図2-2-3

[https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/html/zenbun/s2\\_2\\_3.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/html/zenbun/s2_2_3.html)

## 社会人の大学院利用のパターン

- |   |              |    |   |
|---|--------------|----|---|
| 1 | 自費負担・働きながら   | 例) | ビジネススクール<br>社会科学系                       |
| 2 | 所属組織負担・働きながら | 例) | 工学・情報系<br>公共政策系<br>医療・看護                |
| 3 | 自費負担・全日制     | 例) | 臨床心理<br>法科大学院<br>人文科学系                  |
| 4 | 所属組織負担・全日制   | 例) | 博士課程（技術系）<br>教職大学院<br>ビジネススクール（エグゼクティブ） |

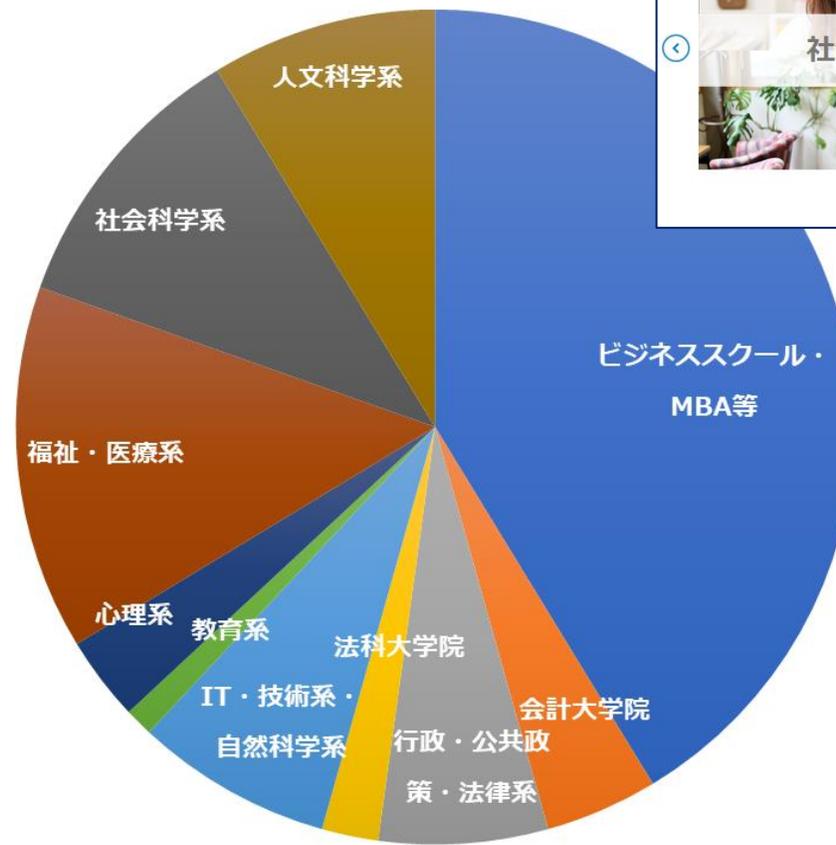
# 文部科学省「社会人の大学等での学びを応援するサイト マナパス」より

掲載事例 219 件のうち社会人大学院生は 92 件

- ・ 約 4 割はビジネススクール
- ・ 約 4 割が専門職大学院



	事例数	うち専門 職大学院
ビジネススクール・MBA等	38 人	28 人
会計大学院	4 人	3 人
行政・公共政策・法律系	6 人	1 人
法科大学院	2 人	2 人
IT・技術系・自然科学系	7 人	3 人
教育系	1 人	0 人
心理系	3 人	0 人
福祉・医療系	13 人	0 人
社会科学系	10 人	0 人
人文科学系	8 人	0 人
	92 人	37 人



【インタビューより】  
社会人が大学院で得たもの

# 素材



社会人大学・大学院検討のための専門誌

『社会人&学生のための大学・大学院選び』  
(2005~2017)

『スタディサプリ社会人大学院』 (2018~)

メインとなるコンテンツは  
社会人大学院生・修了生のインタビュー

## インタビュー内容

- 1 進学のかっかけと決定の要因
- 2 何が変わったか？何を得たか？

# 社会人修了生による「大学院での学びの価値」

グループワークやディスカッションを通して人に伝わる言葉を意識するように。上司に「リーダーらしくなった」と言われた

自信がついた  
堂々と話せるようになった

「自分が経営だったらどうする」と考えるようになって以来、愚痴を言わなくなった

自分の気持ちの変化も楽しめるようになった

まず目標を定め、共有する習慣がついた。チームの生産性が眼に見えて上昇していった。

休日は全滅なので、研究の進み具合は妻や子どもと共有するように。修了式はみんなで祝福してくれた。

食わず嫌いだった社会科学（経済学）のおもしろさに目覚めた

修士論文、あそこまで何かに没頭した経験は今までになく、自分の中で新しい何かが生まれた

意識の高い学生仲間刺激され起業を決意。自分の変わりように自分で驚いている

少々壁にぶちあたっても、「じゃあこうしてみようか」と次の手を打つようになった

根性がついた、と思います（笑）。だから、精神論を笑い飛ばせる

主張することが増えすぎ？と危ぶんでいたのに、夫から逆に「かたくなさがなくなった」と言われ驚いた。

考える訓練を繰り返し、脳みそに汗をかき続けた結果、提案の手ごたえが変わってきた

教授のアドバイスを通して考え方が変わっていった。気づきが増えた

特に価値を感じていなかった経験が自分の中に活かしていることに気づけた。

とにかく考える訓練を繰り返すので意思決定のスピードが目に見えて上がった

## 社会人修了生による「大学院での学びの価値」

インタビューで振り返ってもらえると、多くの「宝物」が語られる

### 価値① 「自信」

- ・「修羅場」を乗り越えた経験による自信

### 価値② 実行力・遂行力

- ・周囲を巻き込んでいくプロジェクトマネジメントのスキル
- ・セルフマネジメントスキル（時間、モチベーションなど）

### 価値③ 普遍的・体系的な専門知識

- ・視野の広さ、視座の高さ
- ・その中での自分の過去の経験の位置づけ

### 価値④ 学術的な訓練により得られた汎用的なスキル

リサーチスキル、フラットに議論できるスキル、説得力のあるアウトプットをまとめるスキル、問題解決技法、批判的思考、論理的思考、デザイン思考、アート思考…

### 価値⑤ 人脈

- ・同じ問題意識を持つ仲間とのネットワーク形成

### 価値⑥ 資格・学位

- ・資格…臨床心理士など
- ・学位…外資系・在外企業、高等教育機関への応募資格

## 社会人修了生による「大学院での学びの価値」

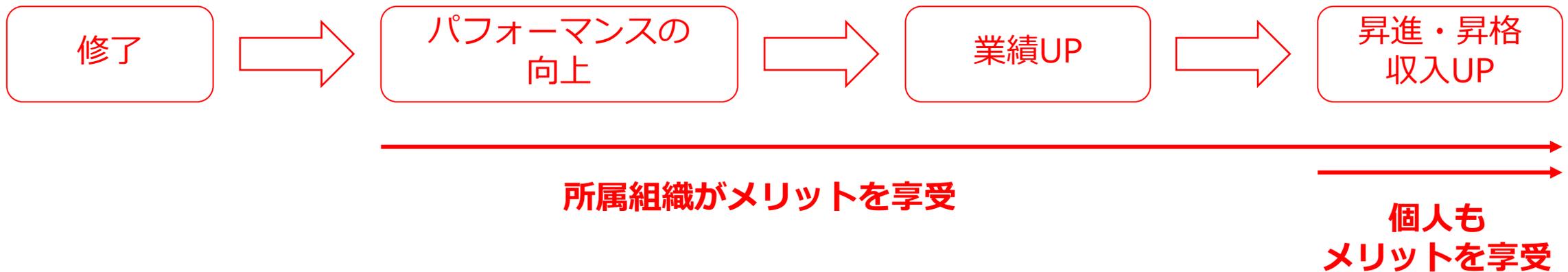
修了生のインタビューで語られる大学院の価値は、まず「自信」や「実行力・遂行力」などコンピテンシーに関わる内容。専門知識やアカデミックスキルはそれらをもたらす源という位置づけ



## 収入UPとの関係

- ・ 修了後に収入UPとなった修了生は多いが、業績UPを経ての結果のため「直接的なメリット」として語られることは少ない

※業務上の課題解決を目的とした学びの場合



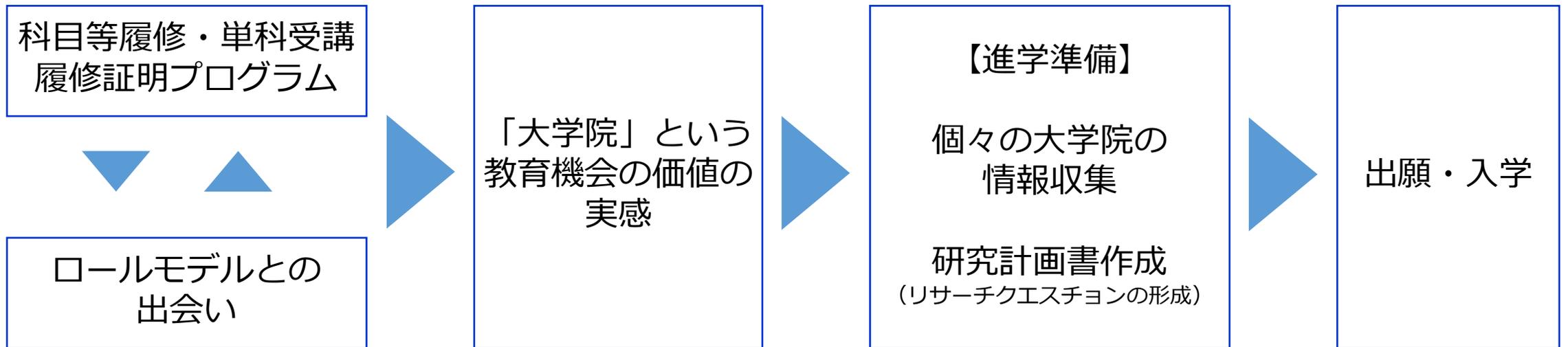
※諸外国の場合、学位取得直後に上位職種への応募機会が得られ、採用となれば即個人がメリットを享受可能（合わせて短期間での失職のリスクを伴う）

※評価や処遇が伴わない場合、個人の投資とその成果に企業が「フリーライド」する状態となる

【インタビューより】  
大学院に入るまでのプロセス

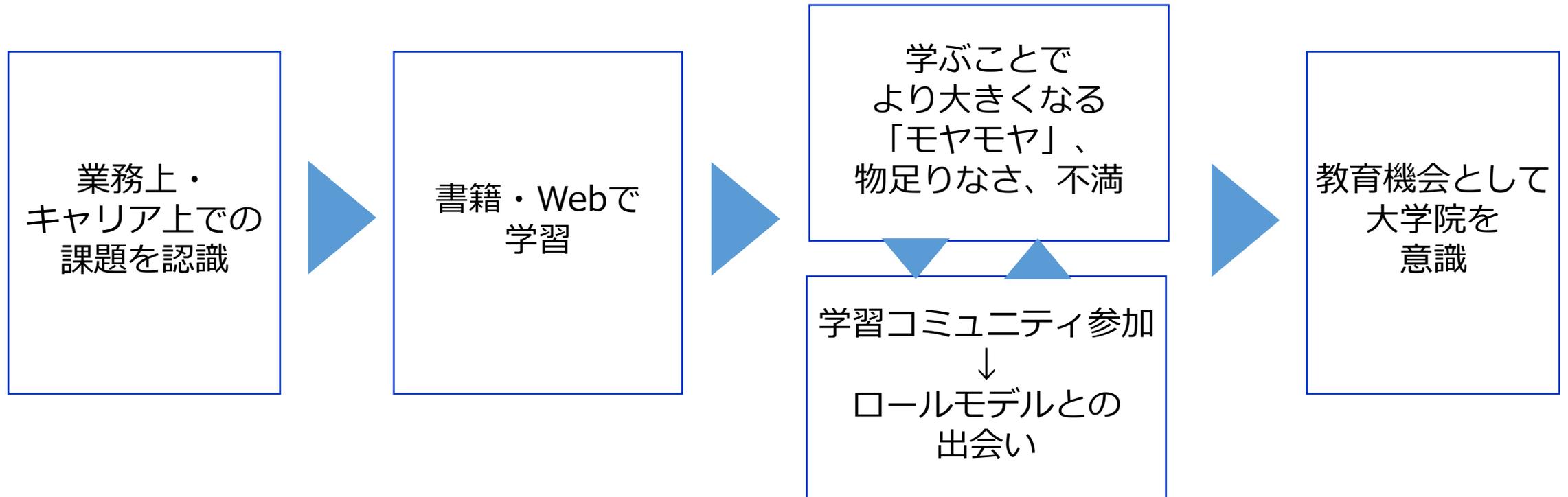
## 大学院の「発見」から入学まで

- ・ 自らと問題意識の近い「ロールモデル」との出会いを持つ
- ・ 科目等履修（単科受講）や履修証明プログラムで大学院での学びを実感



## 大学院検討の「前史」

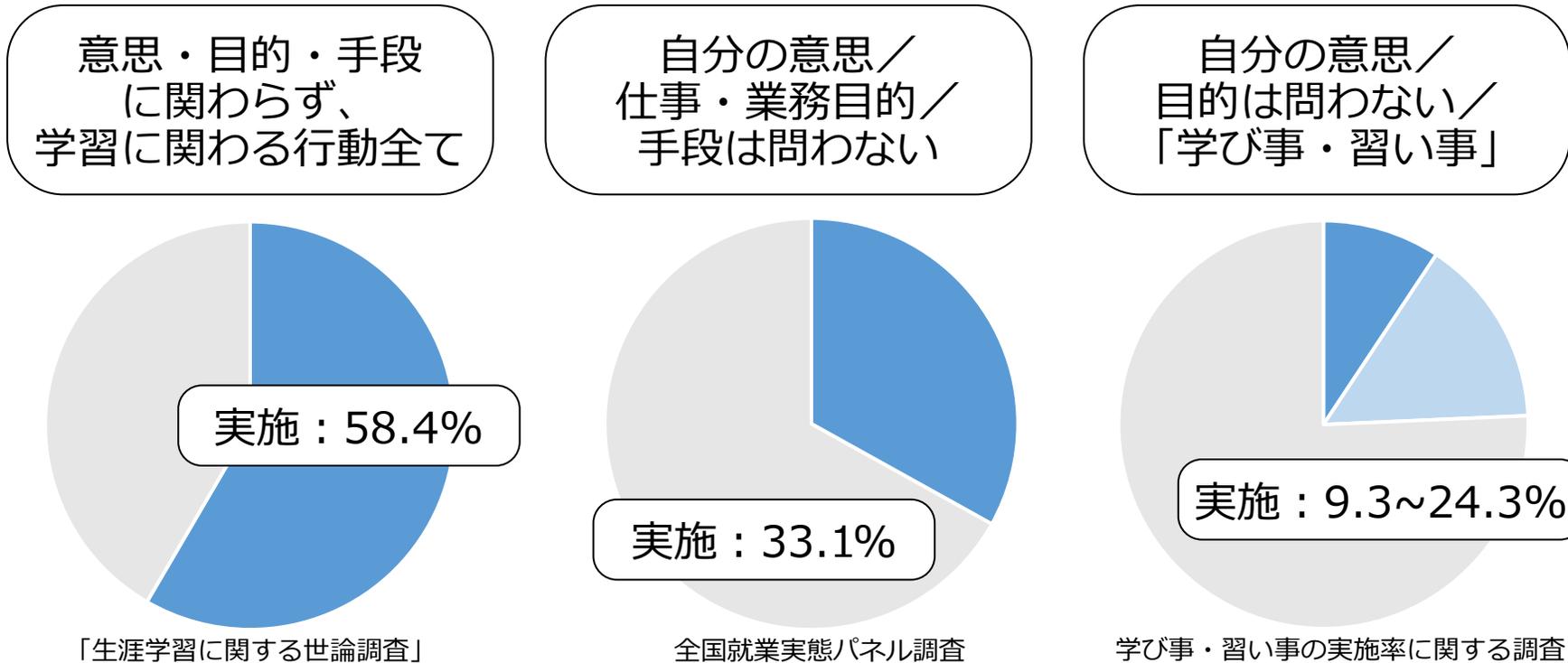
- まず活用されるのは大学院以外の学習機会。  
そこでの「不満」「モヤモヤ」が大きくなってはじめて  
大学院という教育機会の発見にいたる



大学院を利用する社会人が少ない理由

# 「自分の意思で」「学び事・習い事」を実施する者は少数派 「学び続ける人」と「ずっと実施しない人」に二極化

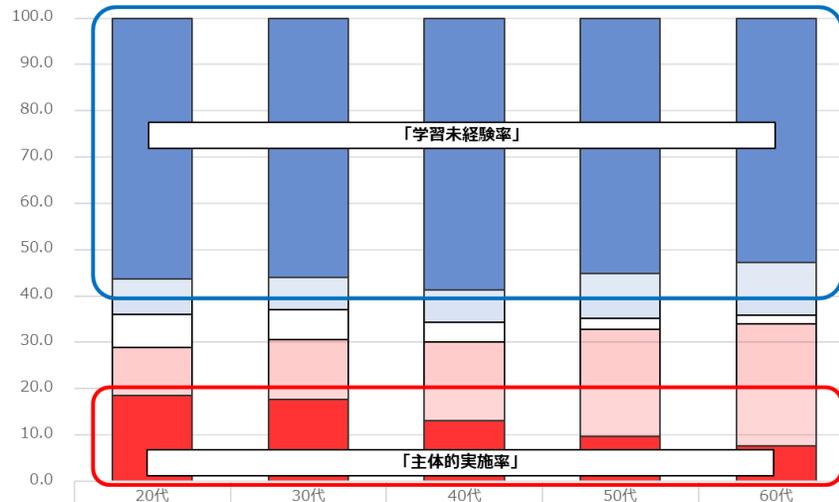
日本の社会人はどれくらい学んでいるか



# Appendix 年齢ごとの学習実施率と「未経験率」

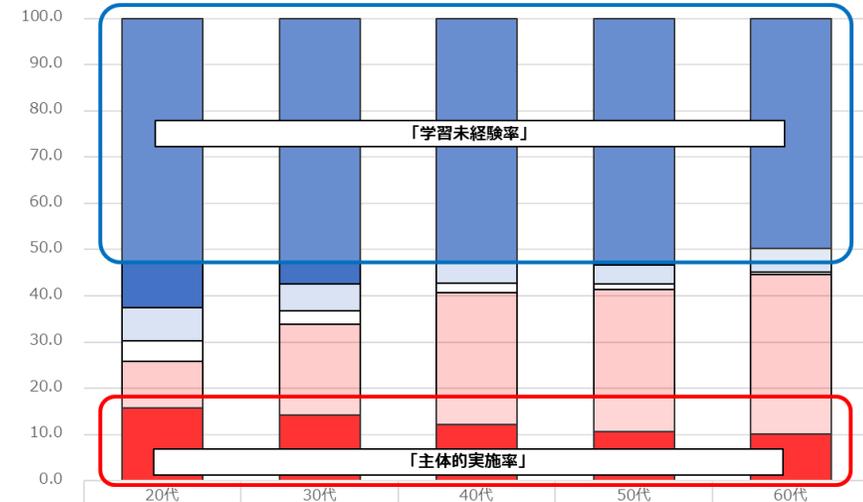
- ◆ 年齢が上昇するごとに、学習実施率は下がる（特に男性）
- ◆ 自ら学習を実施したことがない「未経験率」は年齢が上がっても減っていない

学び事・習い事の「実施率」と「未経験率」（男性）



	20代	30代	40代	50代	60代
■ 全く実施したことはない (%)	56.4	56.0	58.7	55.1	52.8
□ 職場の指示で一年以上過去に実施もしくは継続 (%)	7.5	6.9	6.9	9.7	11.3
□ 職場の指示で一年以内に実施もしくは継続 (%)	7.2	6.5	4.4	2.4	1.9
□ 自分の意志で一年以上過去に実施 (%)	10.3	13.0	17.0	23.1	26.4
■ 自分の意志で一年以内に実施もしくは継続 (%)	18.6	17.6	13.0	9.7	7.6

学び事・習い事の「実施率」と「未経験率」（女性）



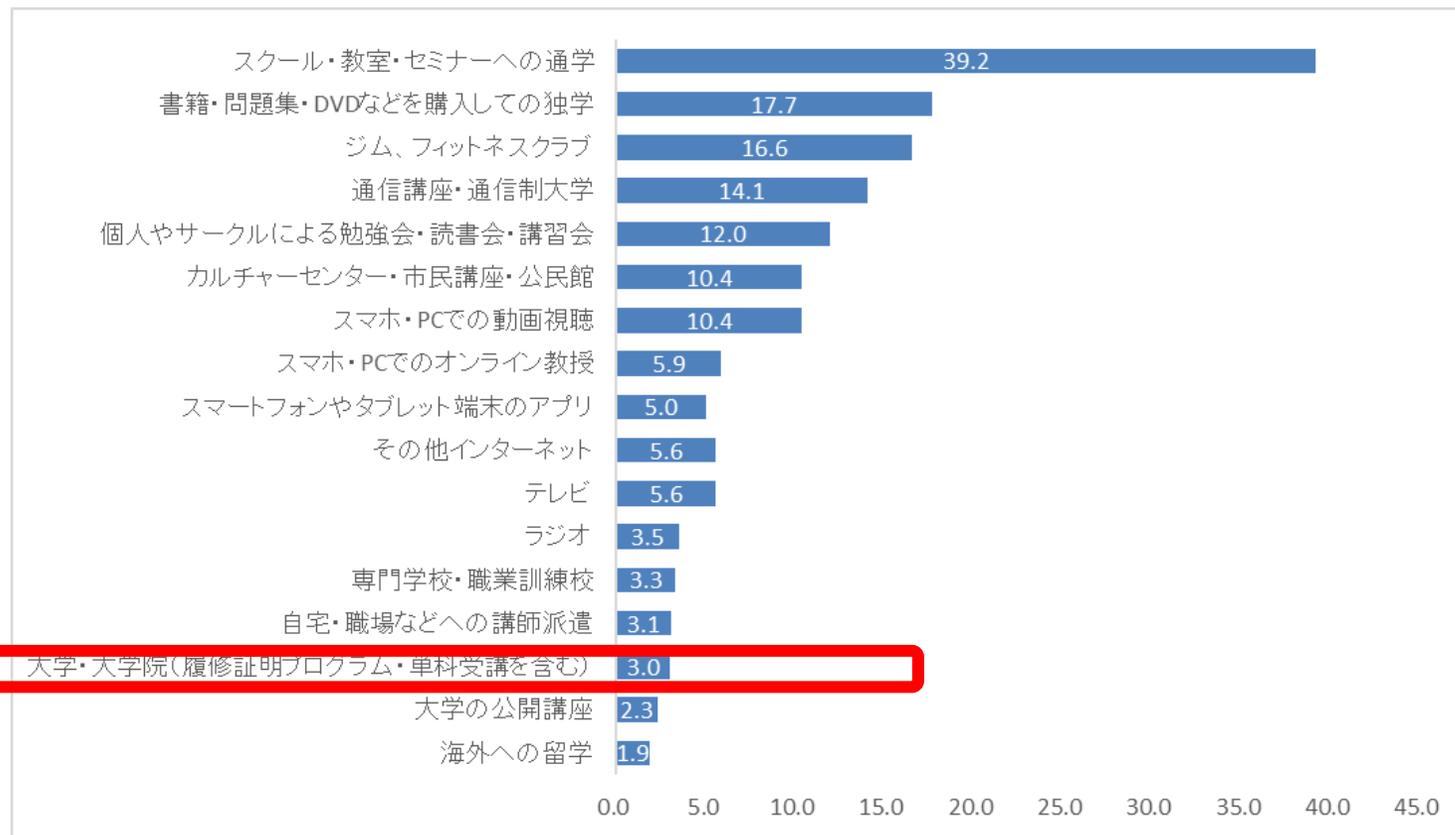
	20代	30代	40代	50代	60代
■ 全く実施したことはない (%)	62.5	57.5	52.7	53.3	49.7
□ 職場の指示で一年以上過去に実施もしくは継続 (%)	7.2	5.8	4.6	4.1	5.1
□ 職場の指示で一年以内に実施もしくは継続 (%)	4.5	2.9	2.0	1.2	0.5
□ 自分の意志で一年以上過去に実施 (%)	10.1	19.6	28.6	30.7	34.5
■ 自分の意志で一年以内に実施もしくは継続 (%)	15.7	14.2	12.1	10.7	10.2

学ぶ手段として、「大学・大学院」は決して一般的な手段ではない

## 大学・大学院の利用は **学び実施者の3%**

この1年間で実施した（実施している）  
全ての習い事・学び事について伺います。  
学んだ手段に該当するものを全て教えてください。

**大きな  
「白地」が存在！**



## 大学・大学院が社会人学習者（自発的学習者）から選ばれていない理由

### Product

#### 提供価値と学習者が解決したい課題との不一致

学位課程はしばしば「オーバースペック」  
リターンがもたらされるまでの期間が長い  
今求めるものがスピーディーに提供されない（⇔質保証？）

### Price

#### 条件面でのバリエーションが少ない

費用、開講曜日、時間帯、立地、オンライン対応

### Promotion

#### 学習者との接点が少ない

ロールモデルと出会う機会がない  
他の学習機会とのつながりが少ない

### Place

#### 利活用の手続きが煩雑

大学・大学院が社会人学習者（自発的学習者）から選ばれるために

Product

## 小規模プログラムを機動的に多種多量提供

「多産多死」を可能とする体制（学位課程と接続）  
提供価値に応じた教育方法の設定  
学習支援・アドバイジングの実施  
継続学習機会・修了生コミュニティの創設

Price

## バリエーションの拡大

費用、開講曜日、時間帯、立地、オンライン対応

Promotion

## 学習者とのコミュニケーション強化

修了生の当事者化  
他の学習機会との接続・連携

Place

## 利活用手続きの〈世の中基準〉化